

国際交流基金

K13B1020 岡田七海、K13B3037 田代希和、K14A3007 飯塚知美

- 実習先

国際交流基金 日本語国際センター

(Japan Foundation Japanese-Language Institute)

〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和 5-6-36



- 実習機関について

日本政府の独立行政法人である「国際交流基金」の附属機関として、1989年に日本語国際センターが浦和市（現さいたま市）に創設された。国際文化交流を通じて日本に対する諸外国の理解を深め、国際相互理解を増進することを目的に事業を行っている。「海外での日本語教育支援」を重要な軸として捉えている背景には、日本語学習者の急増、世界中からの日本語教育に対する需要増加、そして学習者や学習目的の多様化が挙げられる。そのため、日本語国際センターでは海外日本語教師の研修、日本語教材の製作、教授法の開発・普及事業などを行っている。日本語国際センターで研修を受けた日本語教師の数は1万人を超え、この浦和にあるセンターが世界の日本人教師コミュニティ形成の役割を果たしている。日本語国際センターは研修参加者の宿泊施設も兼ねている。そして、日本語教育専門家が集い、海外の日本語教師対象の研修や日本語教育のための教材開発を行っている。世界唯一の日本語教育専門の図書館も備えている。

- 海外日本語教師短期研修（夏期）について

研修期間：2017年（平成29年）6月27日（火）～8月17日（木）の52日間

研修参加者：24か国・地域から40名

（国名、人数： モンゴル1、台湾1、インドネシア9、タイ2、フィリピン3、ベトナム4、マレーシア1、ミャンマー2、インド1、ネパール1、バングラデシュ1、米国1、ジャマイカ1、パナマ1、アルゼンチン1、ペルー1、アイスランド1、アルバニア1、ウズベキスタン1、キルギス1、ハンガリー1、ポーランド1、ロシア2、トルコ1）

経済連携協定（EPA）に基づくインドネシア人・フィリピン人看護師・介護福祉候補者に対する日本語予備教育事業に関わる日本語教師も特別枠で参加していた。



写真は研修最終日である 8 月 16 日の歓送会で、**The Japan Times** に掲載されたもの。

- 研修の目標

- ①教師として必要な日本語運用能力の向上
- ②教授法の向上
- ③文化理解の深化

また、他の国や地域からの先生方と相互に学び、研修成果を帰国後も発展させ、教育上の問題解決に取り組み、自身の授業を改善できる力を養成することも重視している。

- 研修内容

- ①教授法関連科目：自身の教授活動を振り返り、授業を改善する

- ・参加者自身の教授活動をふりかえり、授業を改善する
- ・課題遂行型テキスト『まるごと』や、ARCS モデルに基づいた教室活動
- ・教授法発表会：個人またはグループで課題を設定し、アイデアを共有

【まるごと】

国際交流基金が発行している、課題遂行型テキスト。写真やイラストが多く、コミュニケーション能力を高める。運用力を重視している、大人の学習者向けの教材である。初めにそのトピックの Can-do が示されていて、最後に自己評価のための Can-do チェックがあることが特徴である。

【ARCS モデル】

John. M. Keller によって提唱された Attention（注意）、Relevance（関連性）、Confidence（自信）、Satisfaction（満足感）の頭文字をとったもの。

【教授法発表会】

8月14日に夏期短期研修のまとめとして行われた。テーマごとに1人から4人でグループを作り、夏期短期研修で学んだことをもとに考えた授業デザインや教室活動について、ポスターを使って発表した。発表内容は、ひらがなや漢字といった文字に関するものやゲームで楽しく学習するもの、レアリアを活用したものなど、帰国してから実際に授業をどのように行いたいのかという実用的なものが多かった。さらに質疑応答でも、教授環境が異なる場合にどのように工夫するかという質問が多く見られた。また、発表を聞いた側は付箋紙にコメントを書いて、発表者に渡していた。これは、発表会後の振り返りの活動の際に活用されていた。

②日本語関連科目：JF日本語教育スタンダードに基づいて、日本語によるコミュニケーション能力の向上と文法に関する理解を深める

*総合日本語 1～4クラス

- ・「言語と文化」「学校と教育」などのトピック
- ・話す、聞く、読む、書く 運用力を重視
- ・日本語とともに、日本の文化や社会についても学ぶ

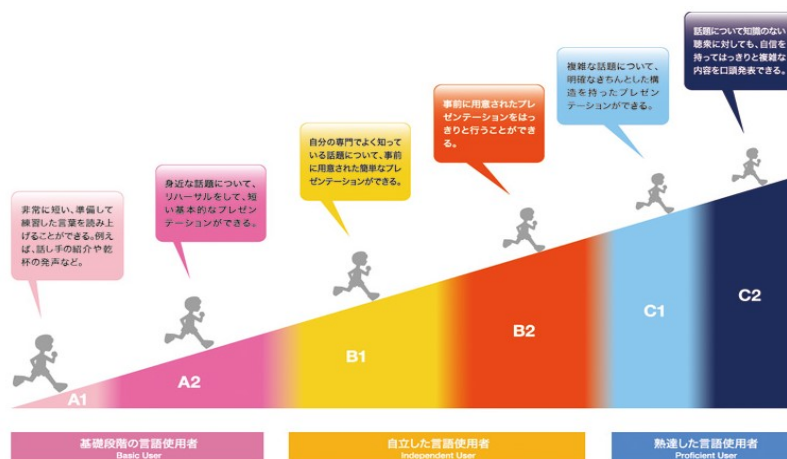
*文法

A コース：初級の文法を中心に、知識の整理と教える時の注意点を考える

B コース：重要な文法項目の理解を深め、教授法的な観点から捉え直す

【JF日本語教育スタンダード】

国際交流基金が2010年から公開している。CEFR（ヨーロッパにおける言語教育の基盤）の考え方を基礎にし、コミュニケーション能力を重視してつくられたもの。「相互理解のための日本語」を念とする。A：基礎段階の言語使用者、B：自立した言語使用者、C：熟達した言語使用者の3つの大きな段階に分かれている。総合日本語の授業目標は、JF日本語教育スタンダードのレベルで設定されていた。



③日本文化関連科目

書道ワークショップ、歌舞伎鑑賞教室事前学習、夏祭りワークショップ、プロジェクトワーク、選択科目で落語ワークショップ、日本の最新事情、朗読・紙芝居・語り、地方研修事前学習、その他（PC 講習、蔵書検索講習、電子ブック説明会、JLPT 説明会）

【夏祭りワークショップ】 2017年7月18日（火）

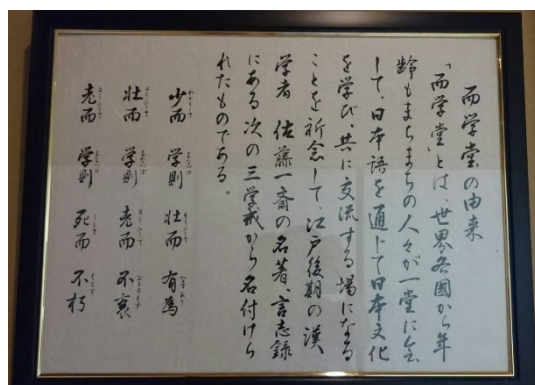
センター内のホールにて、輪投げやヨーヨー釣り等の夏祭りワークショップを実施した。獅子舞体験や浴衣の着付けコーナーもあり、各自夏祭りの雰囲気を楽しんだ。研修参加者の中には、自国の学生に浴衣を着させる機会があるため着付けが慣れている人もいた。最後に全員での盆踊りの時間が設けられており、炭坑節を踊った。「掘って掘ってまた掘って」と口に出しながら動くので、盆踊り経験のない研修参加者も踊りやすかったようだ。

【電子ブック説明会】 2017年7月20日（木）

図書館の蔵書検索や、国に帰ってから教材として活用できる「にほんご多読ボックス」電子ブックのダウンロード方法を学んだ。私たちは研修参加者のパソコン操作の補助に入ったが、慣れない操作を外国語で聞いて行うことの難しさに改めて気が付いた。しかし情報化社会においてパソコン操作は避けられないものとなっており、外国語教育においてもメディアリテラシー教育が不可欠であると認識した。

【朗読・紙芝居・語り】 2017年8月4日（金）

センター内の和室(而学堂)にて、朗読グループの方々による物語の朗読と紙芝居を鑑賞した。金子みすゞの詩「こだまでしょうか」の朗読ワークショップも行った。総合日本語1クラスの研修参加者であっても物語のユーモアまで理解できていたようで、文章をそのまま読み上げるのではなく感情をこめることで分かりやすさが増すと感じた。セリフを強調したり声色を変えたりしながら読み進めると、場面の想像がより鮮やかになるのを実感した。



【プロジェクトワーク】

● プロジェクトワーク概要

研修参加者 4~5 名で各々の関心のあるテーマによってグループを作り、各班に日本人大学生が 1~2 名参加させて頂いた。グループで街を歩き「今」の日本事情や流行情報を知るために行ったプロジェクトである。

「文化」という言葉にはもちろん伝統文化が含まれているが、それが全てではなくて我々の日常生活の周りに溢れているものこそ「今」の日本文化を反映している。普段から日本社会に身を置き生活する我々にとってこの「当たり前」になってしまっているもの、状況に対して疑問や感情を抱くことがなかなか難しい。しかしながら研修参加者とともに街歩きをして、そこでお互いの差異や考えについて話し合うことで研修参加者のみならず、我々も文化の違いや自分の固定観念について気づき、双方の学び合いの時間となった。



● プロジェクトワークの意義、流れ

日本の中にある生活慣習を **Practices** と位置づけ、また生活を豊かにする為の工夫から生み出された産物や恩恵を **Products** と考える。これらを自分自身の足で自ら探し調査、そして集めた情報や資料から、その背後にある文化の考え方や観点 **Perspectives** について、他の国・地域からの研修参加者や日本人大学生とともに熟考し合い学び合う事が目的でありプロジェクトワークの一連の流れである。

- 参加したテーマ

お弁当（岡田七海）、レンタサイクル（田代希和）、おもてなしサービス（飯塚知美）
その他…電車の乗り方、自動販売機、リサイクルショップ、介護施設、バリアフリー、
看板、夏の食べ物、駅

- 3日間のスケジュール

7月24日（月）プロジェクトワーク概要や意義・スケジュール説明→グループ分け

7月26日（水）街歩きの詳細決め→調査実施場所へ各々のグループが向かう

7月31日（月）発表準備（ポスター制作、プレゼンテーション練習）→全体発表

- プロジェクトワークを終えて

我々の身の回りにある身近なものに注目し、その意味を考えてみることの難しさを痛感した。そして日本に長く暮らす人にとっての「当たり前」が、日本文化の一部になり得るという点に気付いた。このプロジェクトを通じて研修参加者や我々日本人大学生は、自分が調査したテーマだけでなく様々なトピックについて全体発表を通じて深い理解を得ていたように思う。我々日本人の学生が各グループに参加する事で我々の認識や考え方についても研修参加者が理解でき、そして我々日本人大学生側もそれぞれの国や地域からの40名の皆さんの発言や認識に驚くことも多かった。双方が日本社会とそして研修参加者の国や地域との差異理解に繋がった。

教科書や資料等からは理解し難い日本社会の「今」を、研修参加者の皆さんは口をそろえて彼らの学生に早く伝えたいと述べていた。身の回りに溢れているものにこそ文化が隠れているのである。



【プロジェクトワーク 一例】

なっとうさんチーム「お弁当」

○概要

食べ物という枠で集まったため、初めにキーワードとして納豆が挙がり「なっとうさん」というチーム名をつけた。しかしこのプロジェクトワークが伝統文化ではなく日本の「今」をテーマにしていることに立ち返り、現代の生活により近い、お弁当に着目することにした。日本のアニメや漫画から始まったという BENTO ブームのおかげで、学生達が親しみやすいテーマであるという意味も大きい。また、研修参加者にとってお弁当は健康的な食事という印象が大きいようであった。忙しくても同じものばかり食べず、季節感や彩りに気を使った食事を気軽にとることができるという利点を強調することにした。

○調査方法

センター周辺のコンビニやスーパー、弁当専門道をまわって種類の多さを改めて確認し、写真を撮った。弁当専門店ではインタビューも行い、スーパーでは実際にそれぞれお弁当を買って食べた。お弁当の写真が載っているチラシを入手し発表時の資料の一つとして提示した後、研修参加者が生教材として持ち帰っていた。



○感想

私が普段の生活でお弁当をよく食べているかと聞かれればそうでもなく、パンやおにぎり等で軽く済ませることが多い。お弁当だけでなく日本の昼食という括りでの発表を提案したが、お弁当の多様性を強調したいという研修参加者の意見を優先した。日本人大学生という立場を活かすことと研修参加者のニーズを汲むことの両立が難しかった。日本ではこれはこうだと押し付けるのではなく、日本人側の一つの意見として聞いてもらえるよう努めた。

プロジェクトワーク最後の発表会では、私自身も言葉の説明やまとめの部分で発表を行った。話し合いの段階で、どのように日本の現代社会の様子がお弁当に反映されているかという部分にあまり触れられず、発表においても社会的背景への言及が足りなかったことは悔やまれる。しかし、写真を多用しカラフルにすることで、見ていて楽しいポスターの作成は予定通り成功した。また、他のグループの発表を聞く際、普段から先生の立場で教えている研修参加者は説明する時の話し方はもちろん、ポスターを邪魔しない立ち方まで慣れていると感じ大変勉強になった。

● 海外日本語教師夏期短期研修スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
1	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2
午前	/	来日	9:30-11:00 生活オリエンテーション	9:30 プレゼンメントテスト 筆記テスト [ホール] 作文テスト [ホール]	さいたま見学 【全員参加】		
			11:00-12:30 開講式・写真撮影 [ホール]				
午後	/	※図書館WS開催	13:30-14:10 テスト説明等[ホール]	13:30 プレゼンメントテスト 会話テスト [2・3・5・6・8・11・12・13]			
			14:10-16:20 施設・図書館案内 CLガイダンス(古屋)				
2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9
午前	9:30 総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(木村)[11] 総合日本語3(雄谷)[12] 総合日本語4(篠原)[13]	総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(木村)[11] 教授法3(雄谷)[12] 教授法4(篠原)[13]	総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(木村)[11] 教授法B(古川)[13]	教授法A(菊岡)[11] 総合日本語3(白井)[12] 総合日本語4(篠原)[13]	文法1(八田)[2] 文法2(高)[11] 文法3(押尾)[12] 文法4(生田)[13]		
	12:20						
午後	13:45 教授法A (木村・濱田・菊岡)[11] 総合日本語3(雄谷)[12] 総合日本語4(篠原)[13] 16:00 16:30 防災訓練	日本文化 書道ワークショップ (山本)[ホール] ~16:35	総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(木村)[11] 総合日本語3(雄谷)[12] 総合日本語4(篠原)[13] 16:00-17:00 PC講習(古屋)[CL]	日本文化 歌舞伎鑑賞教室 事前学習 (古川)[ホール] ゆかた選び[3]	文化体験 歌舞伎鑑賞教室 【全員参加】		
3	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16
午前	9:30 総合日本語1(菊岡)[2] 総合日本語2(藤長)[11] 総合日本語3(雄谷)[12] 総合日本語4(篠崎)[13]	総合日本語1(菊岡)[2] 総合日本語2(藤長)[11] 教授法3(雄谷)[12] 教授法4(篠原)[13]	総合日本語1(市岡)[2] 総合日本語2(藤長)[11] 総合日本語3(二瓶)[12] 文法4(生田)[13]	教授法A(木村)[11] 教授法B(篠原)[13]	文法1(八田)[2] 文法2(高)[11] 文法3(押尾)[12] 総合日本語4(大隅)[13]	夏祭り	
	12:20						
午後	13:45 総合日本語1(菊岡)[2] 総合日本語2(木村)[11] 総合日本語3(雄谷)[12] 総合日本語4(篠崎)[13] 15:35 16:00 16:00-17:00蔵書検索講習A (坂井・大久保)[CL]	総合日本語1(菊岡)[2] 文法2(高)[11] 総合日本語3(白井)[12] 総合日本語4(篠崎)[13] 16:00-17:00仲間作りワー クショップ	文化体験 ゆかた着付け 【選択】 [ホール]	文法1(八田)[2] 総合日本語2(星野)[11] 総合日本語3(二瓶)[12] 総合日本語4(大隅)[13]	総合日本語1(市岡)[2] 総合日本語2(星野)[11] 総合日本語3(生田)[12] 総合日本語4(大隅)[13] 16:00-17:00電子ブック説明 会A(坂井・大久保)[CL]		
4	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23
午前	海の日	総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(木村)[11] 教授法B(篠原)[13]	総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(星野)[11] 総合日本語3(生田)[12] 総合日本語4(大船)[13]	教授法1(木村)[11] 教授法2(濱田)[12] 教授法B(菊岡)[13]	文法1(八田)[2] 文法2(高)[11] 文法3(押尾)[12] 文法4(生田)[13]	文化体験 ホームステイ 【選択】	
		12:20					
午後	海の日	日本文化 夏祭りワークショップ (雄谷・木村・菊岡 篠原・濱田)[ホール]	総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(星野)[11] 総合日本語3(白井)[12] 総合日本語4(大船)[13]	総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(星野)[11] 総合日本語3(雄谷)[12] 総合日本語4(大船)[13]	文化体験 茶道デモンストレーション 【選択】 [ホール]	10:30 対面式	
		15:35					
			16:00-17:00 ホームステイ説明会[3]	16:00-17:00電子ブック説明 会B(坂井・大久保)[CL]			

	月	火	水	木	金	土	日
5	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30
午前	9:30 総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(星野)[11] 総合日本語3(雄谷)[12] 12:20 総合日本語4(篠原)[13]	総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(木村)[11] 教授法B①(中尾)[12] 教授法B②(白井)[13]	日本文化 プロジェクトワーク② (木村・濱田・雄谷・ 菊岡・篠原)[ホール]	教授法①(篠原)[CL] 教授法②(濱田)[11] 教授法③(雄谷)[12] 教授法④(菊岡)[13]	文法1(八田)[2] 文法2(高)[11] 文法3(市岡)[12] 文法4(生田)[13]		
午後	13:45 日本文化 プロジェクトワーク① (木村・濱田・雄谷・ 菊岡・篠原)[ホール] 15:35	文法1(八田)[2] 文法2(高)[11] 総合日本語3(白井)[12] 総合日本語4(篠原)[13]	日本文化 プロジェクトワーク③ (木村・濱田・雄谷・菊岡・篠原) [2,3,11,12,13,CL]	個別研修 教壇実習①(飯塚さん) 教壇実習②(岡田さん)	日本文化【選択】 落語ワークショップ (濱田) [而学堂]		
16:00	16:30-17:30 ティーパーティー	※図書館WSあり		16:00-17:15JLPT説明会 (木野)[ホール]			
6	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6
午前	9:30 日本文化 プロジェクトワーク④ (木村・濱田・雄谷・菊岡・篠原) [2,3,9/10,11,12,13,CL] 12:20	高校訪問 埼玉県立 所沢高等学校 【全員参加】	総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(木村)[11] 教授法B①(菊岡)[12] 教授法B②(雄谷)[13]	教授法A (木村・濱田・菊岡)[11] 教授法B(篠原)[13]	文法1(八田)[2] 文法2(高)[11] 文法3(市岡)[12] 文法4(生田)[13]		
午後	13:45 日本文化 プロジェクトワーク⑤ (木村・濱田・雄谷・ 菊岡・篠原)[ホール] 15:35		教授法1(木村)[11] 教授法2(濱田)[12] 教授法3(雄谷)[12] 教授法4(篠原)[13]	総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(木村)[11] 総合日本語3(雄谷)[12] 総合日本語4(篠原)[13]	日本文化【選択】 ①朗読・紙芝居・語り [而学堂] ~15:45 ②日本の最新事情(高)[11]		
16:00	~16:35			16:00-17:00 帰国説明会	教壇実習③(田代さん)		
7	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13
午前	9:30 総合日本語1(濱田)[2] 総合日本語2(木村)[11] 12:20 総合日本語3(雄谷)[12] 総合日本語4(篠原)[13]	教授法A(個別指導) (木村・濱田)[11] 教授法B(個別指導) (雄谷・篠原)[13]	教授法A(発表会準備) (木村・濱田)[11] 教授法B(発表会準備) (雄谷・篠原)[13]	教授法A(発表会リハール) (木村・濱田)[11] 教授法B(コース内発表) (雄谷・篠原)[13]	山の日		
午後	13:45 日本文化 地方研修事前学習【選択】 (宮坂・菊岡) [ホール] 15:35	教授法A(個別指導) (木村・濱田)[11] 教授法B(個別指導) (雄谷・篠原)[13]	教授法A(発表会準備) (木村・濱田)[11] 教授法B(発表会準備) (雄谷・篠原)[13]	教授法A(発表会リハール) (木村・濱田)[11] 教授法B(コース内発表) (雄谷・篠原)[13]			
16:00		~16:35	~16:35	~16:35			
8	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20
午前	9:30 教授法AB(合同) 発表会 (雄谷・菊岡・木村・篠原・濱田) [ホール] 12:20	研修まとめ1(濱田)[2] 研修まとめ2(木村)[11] 研修まとめ3(雄谷)[12] 研修まとめ4(篠原)[13]	帰国準備	帰国 または 地方研修 (8/17~8/20)			
午後	13:45 教授法A (木村・濱田・菊岡)[11] 15:35 教授法B (雄谷・篠原)[13]	14:00~(予定) 荷物集荷	15:00-16:00 修了式[ホール] 18:00-19:30				
16:00		図書館最終返却日	歓迎会[ホール]				

● 教壇実習 岡田七海

テーマ 日本と韓国

実施日 2017年7月27日

目標①日本と似た文化を持つ隣国 韓国を知る

②韓国研修参加者との交流のきっかけにする

内容①日韓クイズ：混同しそうなものを挙げる

②日本にある韓国文化・韓国にある日本文化

③韓国語ひとこと会話

○概要

韓国への留学経験があったため、日本に最も近い国の一つとして、日韓文化の近似性や交流について経験を踏まえながら紹介した。研修期間中、韓国からの日本語教師研修が同センター内で行われており、研修参加者同士の交流に役立ててほしいとの思いから、韓国語ひとこと会話というコーナーを設けた。日本語と韓国語は文法や単語が似ているということも伝えた。

○反省点

双方向の対話授業ということ念頭に置きながら進めたが、参加者と対話をしようと意気込むあまりに、教室全体への意識が薄れてしまっていた。授業を進めるということに集中し、反応がある参加者ばかりに目が行き、発話の少ない参加者への配慮までは考えられなかった。シミュレーションを重ね、余裕を持った授業進行を心がけたい。

また、授業を進行しながら参加者間の韓国に関する事前知識の差を感じていた。これは事前に予測しておくべきことであった。教室内のこの差を埋めながらも全員が楽しく聞けるような授業づくりを、教案を考える時点から意識していきたい。

○感想

参加者の反応を期待しながら教案を作成したが、序盤からその期待以上の反応をいただくことができ、有難い気持ちでいっぱいであった。反応が全くない授業を想像してみるとおそろしい。授業は聞く人がいてこそ成り立つものだとということ、身をもって体験できた。翌日に、ひとこと会話で扱った「アンニョンハセヨ！」という挨拶をしていただけたのも嬉しかった。同時に自分の発言に対する責任も感じ、普段の会話においても正しくはっきりと話さなければならないと改めて思う。



● 教壇実習 田代希和

テーマ 「日本の就活」

実施日 2017年8月4日



目標①日本の就職活動を知ってもらう。

研修参加者の国や地域と比較をする

②就活は日本文化を如何に反映しているのか、日本で求められる人材や特徴、性格とは何かを理解する

③日本語教育の現場において異文化理解をどう取り入れているのか、どのように扱っているのかを確認する

○概要

日本の就職活動の流れを、私の経験談や新聞に掲載されていたデータとともに紹介した。スライドを利用し年間スケジュールや面接、履歴書のスタイル等大まかな要点をシェアした。その後就活に纏わるクイズやディスカッションを通じて研修参加者の意見や考えも共有した。前半は日本の就活に関する情報ばかりで一方向的であったが、後半はグループワークや〇×クイズによって非常に和やかな、笑いのある双方向的な文化紹介となった。

○良かった点

研修参加者が学生から日本での就職に関する相談を頻繁に受けると言っていた為、今回私自身の経験も含めて何か力になれば嬉しいと思い、この文化紹介を実施した。2か月の教育実習中、国際交流基金の先生方がどのように文化の紹介を行っているのかに着目し、また話し方やスライドの工夫についても研究していた。教壇実習ではその学びを盛り込む事ができ、そしてこれまでの学生生活で感じてきた事や気づきに気を配れたと考える。相手にステレオタイプや固定観念を植え付けないよう意識した教案作成も役立ったと感じている。



○今後改善すべき点

今回の文化紹介を行う前は、机や椅子の配置の重要性をあまり感じていなかったものの、聞く側の緊張を解し積極的発言を促し **interactive** な教室をつくるには教室設営は極めて大切であると理解した。

- 教壇実習 飯塚知美
- テーマ 「日本の部活動」
- 実施日 2017年7月27日

- 目標①日本のいろいろな部活動について理解する。
- ②部活動のいいところ大変なところについて考える。

内容①部活動クイズ：

- 絵と部活動の名前を組み合わせる
- ②運動部と文化部
- ③高校生のスケジュール：部活動の練習量を知る
- ④グループで部活動のいいところ・大変なところについて考える



○よかったところ

時間配分がしっかりできた。クイズは回答時間を延長するなど、状況に応じて対応できた。また、大きな声でゆっくりはっきりと話し、伝えたいことや指示が的確にできた。さらに、日本語のコントロールをし、研修参加者の方々にとってわかりやすい話し方ができた。そして、部活動について興味を持ってもらえ、クイズなどをおもしろいと思ってもらえた。

○改善点

予想外の返答があった時、流れがスムーズにいかなかった。教案の段階で反応について想定しておくべきだと感じた。臨機応変に対応するには、経験を積むことが必要だと感じた。また、例としてひとつしか示せないと、それが代表的なものとして固定観念や固定したイメージを形成させてしまうため、気をつけなければならぬと感じた。

○学んだこと

授業をするほうが前で一方的に話すのではなく、授業を聞く方の反応や協力があってこそ成り立つのだと感じた。なので、授業の内容もちろん大切ではあるが、クラスのいい雰囲気作りや先生と生徒間での信頼関係を築くことも大切であると感じた。

- 国際交流基金クイズ

Q. 国際交流基金に最初に到着した際の第一印象は？

A. 北浦和の住宅地の中に突然現れたホテルという印象で驚いた。

Q. ビックリした点は？

A. 国際交流基金の自動販売機が非常に低価格で有り難かった点。一方で食堂のごはんが意外と高い。(ちなみにオススメは鶏のココナッツ煮) 食堂には世界各国の調味料が揃えてあり研修参加者が思い思いに味付けを楽しんでいた点も印象的である。あとは万が一に備えて非常用のヘルメットが大量に廊下に掛けられている点。



Q. 研修参加者から何度も聞かれた質問は？

A. 「どうして日本語教師にならないの？」という質問が多かった。それに対して「日本の社会を全く知らないのに日本の事を教えられない」と返答した。大学を卒業したばかりだと少し早いと思った。

Q. 国際交流基金でお気に入りの場所は？

A. 広々したロビーや図書館、2階にあるお手洗いが良かった。「而学堂」は蚊が多いという点を除けば素敵な雰囲気良かった。

- 国際交流基金での実習を通じ…

2 カ月間国際交流基金での実習の機会を与えてくださり心から感謝を申し上げます。この気づきや学びをこれからの人生において必ず活かしていきます。本当にありがとうございました。

